

一般に、がんの治療は、手術、抗がん剤、放射線の三大療法が主流です。しかし、従来の方法では、リスクが大きいということ、次々と手術手技が開発され、目覚ましい進歩がみられています。それに比べてがんの原因の探求の歩みが遅いと感ずるのは私だけでしょか。

がん細胞の性質の一つに熱に弱いということが知られ、この弱点をつくことで、がん細胞を除去しようとする療法もあります。古くは、琵琶葉温圧療法から酵素風呂や秋田の玉川温泉の岩板浴療法までさまざまです。

ところが、がん細胞はなぜ熱に弱いのでしょうか？

それは、熱に溶けやすい性質だからということ。つまりバターの様に脂質が多いために熱に溶けて流れ、移動したところで冷えて固まったものを転移が



んというのではないでしようか。実際に、切除したがん細胞にはどろどろした脂質が多く含まれているものです。

だからといって温熱療法で全て解決するわけでもありません。がんの末期患者に良く見られる症状に、腹水や、胸水の貯留があるように、初期がんの場合に

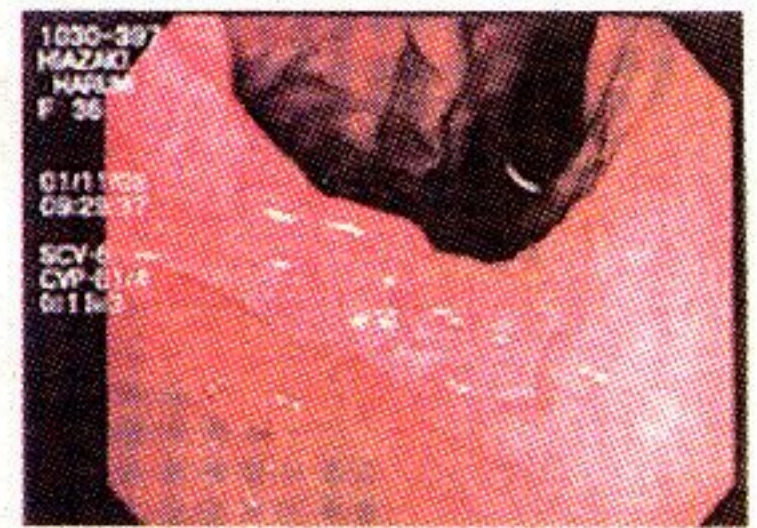
も発汗や排泄の障害が多かれ少なかれ見られます。つまり、がん体質とは、寿命の尽きた細胞を、脾臓で分解できず、毛細血管に滞留し、体内に残っている体質と考えられるのです。

どんな病気にも必ず原因はあるものです。患者を一人の人間としてみることで、さまざま

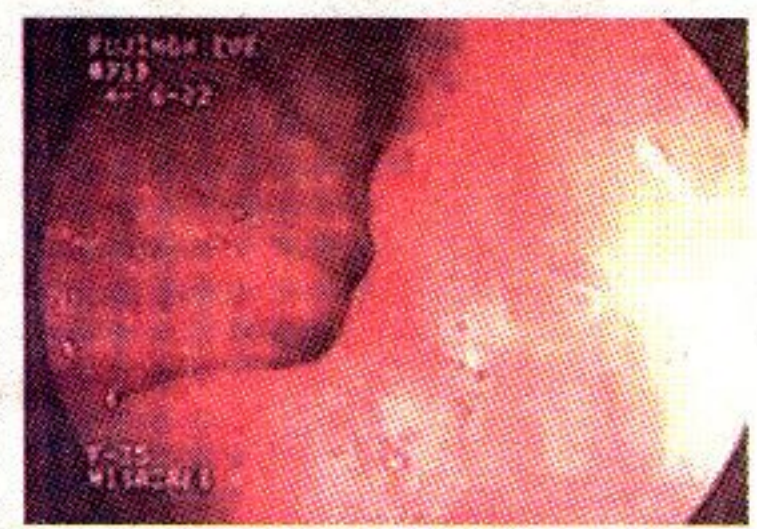
自然医学総合研究所所長

大沼 四郎

まな問題が明らかにあります。病気に対する不安を始め、精神的なストレス、仕事や介護など肉体的なストレス、対人関係によるストレス、農薬や食品添加物の影響、また最近ではストレスの低年齢化など、現代人は病気になるやすい環境に



平成13年11月8日のもの(上)と平成14年4月6日のもの



り除くために、光回復酵素の応用とスーパーストセラピーという独自に開発した手技によって患部のみが改善されるだけではなく、誰もが持つ「自然治癒力」と言われている「新陳代謝」を正常に保つことで、全身若返ることができる方法など不安な方は、早め

問い合わせ
電話 052・801・7063
Eメール shiro@nrt.ne.jp
URL http://www.nrt.ne.jp

自然治癒を科学する

がんの盲点⑦

包囲されています。そこで提案したいのが代替療法の選択です。今回紹介するのは代替療法で進行性の胃癌を克服された三十四歳主婦の症例を紹介します。

写真上は平成十三年十一月八日の内視鏡で調べたものです。全体に血色が悪く組織が変成してがん化しています。

胃を浄化する方法を用います。この方は、胃をい、治癒率を高めるために、顕微鏡で血液画像分析を行います。食べ物で、白血球を活性化し、免疫力を高め、不整脈、無呼吸症、眠循環障害の原因となりが浅い、自立神経失調症、冷え、頻回排尿、に掲載します。

（毎月、第一火曜日）

この方は市民病院で進行性胃癌と診断され、胃の三分の二を切除しなければ、半年後には全身に広がる診断されました。知り合の方から当院を紹介され、手術せずに回復されました。

この方が選択した「NRT自然免疫活性化療法」とは、一般に行われている対症療法ではありません。自然食材のとりかたで、血液

講演会のお知らせ
講師：大沼四郎 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士
開催日：8月27日(日) 名古屋市東区ウィルあいち2F 特別会議室 入場無料
テーマ：がんの盲点(8) 「12cm大の末期悪性卵巣がんが縮小した」
時間：13時30分開場 午後4時30分終了
主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会
共催：自然医学総合研究所
申し込み：自然医学総合研究所 TEL 052・801・7063まで
特典：先着50名様に解毒療法の割引券を贈呈